
十子の1週間

pokki-

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

十子の1週間

【Zコード】

N8214C

【作者名】

pokki -

【あらすじ】

あの日私は“私”ではなくった。あの日私を取り巻く世界が違う世界へと変わった。

夕焼け色に染まる校舎…。静かな校舎にドタバタと走る足音だけが、鳴り響く…。

耳を澄ましてみると分かる。足音が、近づいてくる…。ふと、足音が止んだ。自分の側で…。そして、自分の側でにっこり笑う親友の姿。

いつもなら、楽しい気分になれるはずなのに、今は違う…。背筋が凍る。怖い。逃げだしたい。いろいろな恐怖が渦巻く。彼女が、こつちに一歩踏み出してくる。とっさに逃げた。彼女が追ってくる。必死に逃げる。目も開けれない。とにかく走った。

ふいに、全身に強い衝撃が走った。やっと目が開けれた。体が宙に浮いている。

いたる所が錆びている黄緑色のフェンスが真下に見える。
ああなんてバカなんだろう。屋上で目なんかつぶって走つたりして…。これじゃあフェンスを突き破つて屋上から落ちても、仕方がない。

なんて、これ程力があつた自分に内心びっくりしながら考え、どんどん下へと落ちていった。

周りから、すれば一瞬のことだけど、すごく長く感じた。このまま地面へ、落ちない気さえした…。その長い間、ずっと同じことを考えていた。彼女と、また親友になりたかったな、と。

目が覚めると、真っ白い場所にいた。よく見ると、病室だ。ベッドで、寝ていたわけではなく、真ん中に立っていたのだ。

状況がわからず混乱しながら、ふと、振り返って見たら、自分が、寝ていた。ベッドで。

ますます混乱していると、次は、声をかけられた。後ろから。すぐさま振りかえるが、誰もいない・・・。

すると、足元から、声をかけられた。目線をおろす。かつて想像したことのない生物が、足元にいた。どう表したら、いいのだろう。とりあえず姿は人間の赤ちゃんが一番近い。・・・と思う。なんというか、二頭身なのだ。その上顔がびるーんって横に伸びた感じ。そして目が超パッチリ。顔の半分以上が目なんですかっ？つてぐらい。例えると漫画よくある感じ。あつ・・・これナイス。漫画から、そのまま出てきた感じ。

「ねえ、貴方。」

未だに状況が掴めてない私にその変な物体はいきなり声をかけてきた。

「う・・・わ・・・こ・・・来ないで・・・・おばけえ・・・・」

心の準備ができてなかつた私は、とりあえず言いたい事だけ言った。「こ・・このおばけですって！？貴方はどういう頭をしていらっしゃるの！？」

・・・よく分かんないけど、物事は悪い方向へ進んでいるよつだ。でも、私は密かに“おばけ”なんてぴったりだと思った。ここまで漫画チックでいられると、もうおばけでしかない。こっちとしてはかなり恐い。だがおばけ（こっちでは勝手にそう呼ぶ事にする）は、自らをこいつが乗つた。

「私はおばけなんて下品なな物ではなくてよ。私は天界きた、天使よ。」

てつ・・・天使！？おばけじゃなくて！？たが、そいつは私に考え

る暇を与えず、続けてこう言った。

「だいたいおばけって貴方の事じゃないの。」

目の前が真っ白になつた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8214c/>

十子の1週間

2011年1月20日02時03分発行